

## 9. 信仰の山から憩いの山へ

### ● 信仰の山 ●

丹沢の大山は、奈良時代（755年）に良弁というお坊さんが開山したといわれています。

また、丹沢山地は鎌倉時代から山伏や修験者の修行の場として利用されてきました。このため、今でも行者岳や経ヶ岳など、当時の山岳信仰にちなんだ山の名前をみつけることができます。



### ● 江戸を支えた木材供給地 ●

戦国時代から江戸時代には、小田原城や江戸城築城のために丹沢山地の木材が利用されました。江戸100万人の都市生活を支えたのも丹沢の炭や薪でした。木材を運ぶため丹沢山地を水源とする豊かな川が利用されました。当時、相模川には木材を組んだ筏や炭を積んだ帆かけ船が川を下っていました。

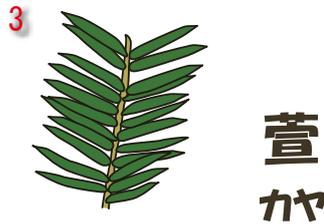
### ！ 丹沢六木 ！

江戸時代、丹沢は幕府の御林（直轄地）になりました。木が盗まれないように、寺山・横野（現在の秦野市）、煤ヶ谷・宮ヶ瀬（現在の清川村）の村々では御林の見回りが命ぜられました。

ツガ、ケヤキ、カヤ、モミ、クリ、スギは「丹沢六木」と呼ばれとくに大切にまもられました。村人が見回りの時に札をかけた場所が今でも「札掛」という地名で残っています。



建物や船をつくるために利用



こぼん しょうぎばん  
碁盤や将棋盤に利用



くさりにくいので、水車小屋などに利用



家具や楽器、道具をつくるために利用



建材や道具をつくるために利用



とこいた  
柱や床板などに利用